

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載  
【部門区分】第6部門第2区分  
【発行日】平成19年6月28日(2007.6.28)

【公開番号】特開2002-258519(P2002-258519A)  
【公開日】平成14年9月11日(2002.9.11)  
【出願番号】特願2001-53682(P2001-53682)  
【国際特許分類】

**G 0 3 G 9/08 (2006.01)**

【F I】

G 0 3 G 9/08 3 7 4

【手続補正書】  
【提出日】平成19年5月10日(2007.5.10)  
【手続補正1】  
【補正対象書類名】明細書  
【補正対象項目名】0003  
【補正方法】変更  
【補正の内容】

【0003】

このような乾式現像方式では、転写残りのトナーが感光体表面に残るために、帯電工程前にクリーニングブレードやファーブラシでクリーニングが行われる。ところが、最近の高画質化の志向に相まって、トナーの粒径が小粒径化の傾向があり、そのためにトナーの流動性が低下し、結果として感光体の表面にトナーが固着するフィルミングを生ずる問題点を有するものであった。

このような従来の問題点を解決するために、トナー粒子の表面に酸化チタン、アルミナ等の無機微粉末やポリフッ化ビニリデン等の各種の樹脂粒子を研磨剤として付着させることが提案されていた。